

教養学部附属教養教育高度化機構ALESS部門、駒場ライターズ・スタジオ

ALESS 英語を「当たり前」の言語とするために

「国際化」の目標のひとつである「学生の英語力の強化」。

教養教育高度化機構では、一昨年から、理系学生向けの、英語によるアカデミック・ライティングの授業を実施しています。

研究者として必須の実践的英語力を身につけること。

東大の授業のグローバル化は着々と進み始めています。

Interview

「授業のグローバル化」 という目標に向かって



トム・ガリー

大学院
総合文化研究科
准教授



板津木綿子

教養学部附属
教養教育高度化機構
特任講師

—— まず、「ALESSとは何なのか。どんなことを行っているのか」ということから、お聞かせください。

ガリー ALESSは理系学生を対象とした英語の能動的学習を行うプログラムです。2008年から理系の1年生、つまり理科一類から三類の1年生は全員必修でこの授業を受けています。教員は現在、10人。全員が英語のネイティブ・スピーカーで、ひとクラスの学生数が平均15人くらいです。少人数で行える点がアクティブラーニングにつながっていますね。

板津 授業ではライティングとスピーキングの作業を重視して、学生同士で討議する機会を多用することで、コミュニケーション能力の育成を目指しています。

ガリー 具体的な進め方としては、学生たちが何らかの科学実験を考案し、実験を行って、その結果を科学論文の形式に沿って英語でまとめるという方法をとっています。「実験を行って論文を書く」という、実際の研究活動に近いスタイルはアカデミック・ライティングを身につけるうえで効果的です。学期の初めに「論

文で使う英語は今まで読んできた英文とどこが違うのか」ということを討議して、その後は実験を計画・実施し、6週間くらいかけて少しずつ論文を書いていきます。書いたものに対して、教員による添削もありますが、クラスメート同士で互いに書いたものを読み合い、より良い文章になるように建設的に指摘や提案をし、議論するピア・レビューという作業に重きを置いています。学期末の2週間には、書き上げた論文の内容を学生たちが口頭発表します。時間はひとり5分くらい。質疑応答も英語で行います。

板津 この授業が始まって3年目です。で、ちょうど、最初に受けた学生たちが今年から学部後期課程に進んでいます。ALESSの効果が本当に明らかになるのは



ALESSと 駒場ライターズ・スタジオ

ALESS (Active Learning of English for Science Students) は、教養学部附属教養教育高度化機構が推進する「理系学生のための英語習得プログラム」。「世界に発信されている科学論文の95%が英語である」という状況を背景に誕生したプログラムで、理系学生の英語論文執筆をトレーニングしていくものです。このトレーニングのサポートを行うのが駒場ライターズ・スタジオ (KWS)。ここにはアカデミック・ライティング教授法の訓練を受けた大学院生が、ティーチング・アシスタントとして常駐しており、学生への個別支援を行っています。

彼らが大学院に進んでからだと考えています。

—— このプログラムを文系学生向けの授業に発展させていくということはお考えですか？

ガリー はい、現在検討中です。文系でALESSに類したコースを作るには、どのようなニーズに応えたらよいか、調査しているところです。

—— では、駒場ライターズ・スタジオ (KWS) についてお聞かせください。

ガリー 40年ほど前から、米国の大学には学生同士で文章の執筆を批判し合い助け合



【上の写真】駒場ライターズ・スタジオでの相談風景。英語の論文執筆などについて、チューター（大学院生）による実践的なアドバイスが受けられる。

【左の写真2点】ALESSでは、英語のネイティブ・スピーカーである講師が学生に指導する。簡単な実験を行い、科学論文としてまとめる作業に進んでいく。

う合う「ライティング・センター」という場所があります。日本の大学でもライティング・センターの数が増えつつありますが、東大に設置されたのが、駒場ライターズ・スタジオ（以下、KWS）です。KWSでは大学院生がアドバイザーとなって、学部生に英語論文執筆のアドバイスを行っています。

板津 このセンターは昨年まで「ALESSライティング・センター」と呼ばれていました。今年4月にKWSに名前を変えたのは、今後、理系論文執筆だけでなく、広くその機能を活用していこうという趣旨があったからです。現在、ライティングのチューターが8名、ALESSの実験相談をするための理系ティーチング・アシスタントが7名います。今年に入って、すでに500件のチュートリアルを行っています。

—— 行動シナリオでは「国際発信力の強化」が強調されています。ALESSやKWSはその推進力になりそうですね。

板津 「授業のグローバル化」へのワンストップだと思っています。ALESSの最大のポイントは、「世界に発信する力」を身につけてもらうこと。国際発信力強化につながる活動なんですね。

ガリー 「タフな東大生の育成」という面でもALESSは効果的です。自力で実験を企画して行い、その結果を自力で論文に仕上げる。ゼロから成果を産み出す「創造力」が要求されるわけです。このプログラムでの経験は、今後、学生たちが様々な問題を解決していくための大きな力になってくれると思いますね。



【重点テーマ別シナリオ】 以下の達成目標に対応!

1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求

■ 国際発信力を強化し、総合研究大学としての国際的プレゼンスを高め、大学間連携や学術を先導する。

2. グローバル・キャンパスの形成

■ 教育・研究における国際連携を戦略的に進めるとともに、国際的発信インフラを整備する。

4. 「タフな東大生」の育成

■ 全ての学生が、豊かな教養と深い専門性を備えた人材になるようにする。特に、海外体験・異文化体験を通じ、コミュニケーション能力や行動力を身につけさせる。

【例：国際的な活躍に支障のない語学力の習得

【部局別行動シナリオ教養学部】 以下の項目に対応!

■ 教養学部（前期課程） → 外国語教育の拡充・強化

■ 教養学部（後期課程） → 教養教育高度化機構の新設・整備